

## 第1編

### 第1部 少子社会を考えるー子どもを産み育てることに「夢」を持てる社会を

---

#### 序章 少子社会を考える

1 日本は、結婚や子育てに「夢」を持ってない社会になっているのではないだろうか。

---

20世紀後半、日本は豊かさを目指して走り続けてきた。特に、その最終10年間は、「安心して老いることのできる社会」の実現に向けて努力を続け、20世紀の最後の年には、介護保険も始まろうとしている。しかし、その間、出生率は下がり続けた。気付いてみれば、日本は、結婚や子育てに「夢」を持ってない社会になっているのではないだろうか。

---

## 第1編

### 第1部 少子社会を考えるー子どもを産み育てることに「夢」を持てる社会を

---

#### 序章 少子社会を考える

2 1997（平成9）年10月，人口問題審議会で少子化についての報告書がまとめられた。

---

1997（平成9）年10月，人口問題審議会で「少子化に関する基本的考え方について」という報告書が取りまとめられた。少子化という問題について初めて正面から取り上げ，その影響，要因と背景について総合的な分析をし，少子化の影響への対応とともに，「要因への対応をする必要がある」との考え方を打ち出した。

このような審議会としての考え方を明示した上で，「少子化，そして人口減少社会をどう考え，将来の我が国社会はどのようにあるべきと考えるかは，最終的には国民の責任であると同時に国民の選択である」として，国民各層における幅広い議論を望んでいる。

---

## 第1編

### 第1部 少子社会を考えるー子どもを産み育てることに「夢」を持てる社会をー

#### 序章 少子社会を考える

3 大切なのは、21世紀の日本を「男女が共に暮らし子どもを産み育てることに夢を持てる社会」にすることである。

21世紀の日本は、人口減少・高齢化の世紀である。

その最初の四半世紀を見通し、乗り切るために、諸般の改革が打ち出されている。

しかし、人口減少と高齢化は更に進む。第2四半世紀の終わり、団塊の世代の子どもたちが後期高齢期にさしかかるころ、日本の人口は今より2割減少し、高齢化率も32.3%に達すると見込まれている。

その時代を見通し、そこに向けてどのような社会をつくろうとするのかが、今、問われている。

大切なのは、貧しく多産だった時代を郷愁をもって振り返ることではなく、豊かになり、人口が減少し続ける21世紀の日本に、「男女が共に暮らし、子どもを産み育てることに夢を持てる社会」をどのようにつくっていくか、ではないだろうか。それはまた、「安心して老いることのできる社会」の基本条件でもある。

図0-1 家庭生活についての満足度

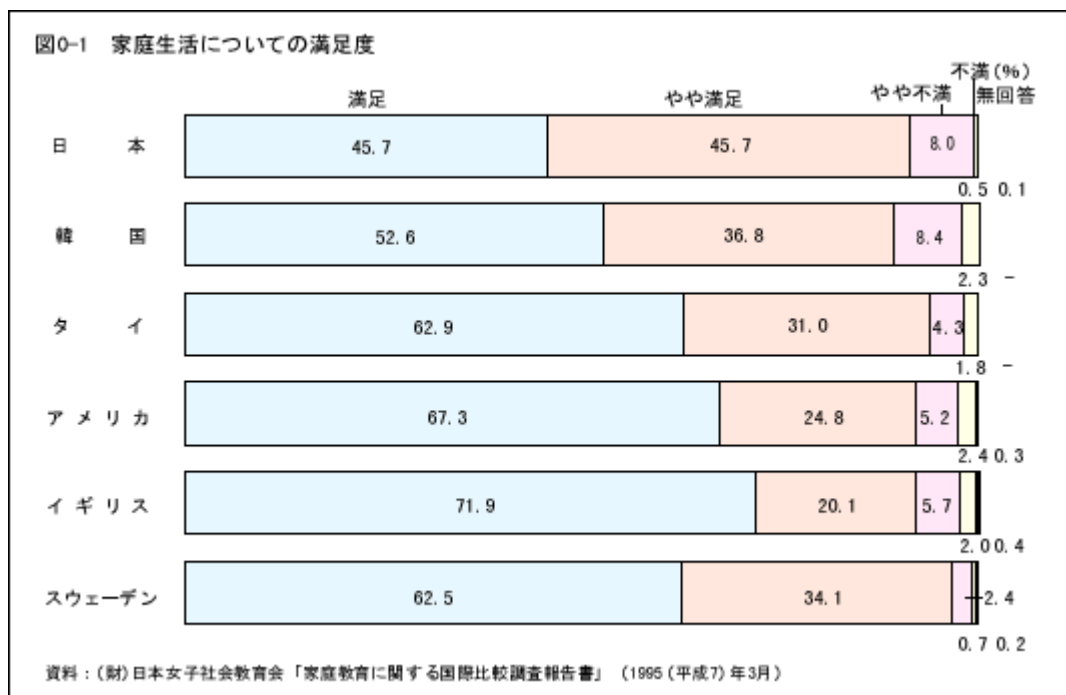
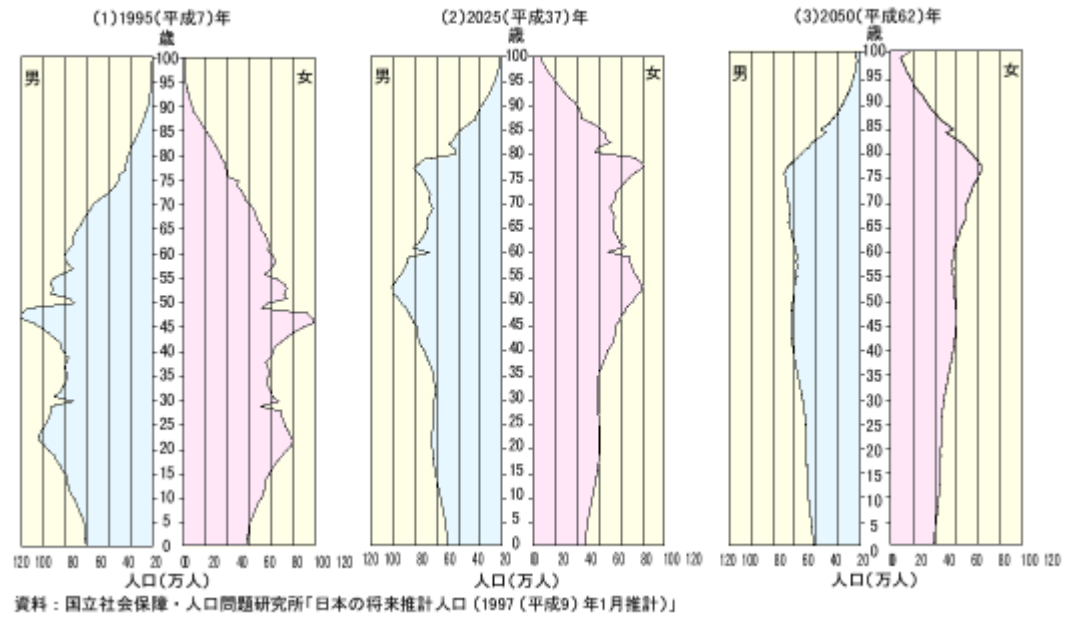


図0-2 現在および将来の我が国の人口構成(人口ピラミッドの変化:中位推計)

図0-2 現在および将来の我が国の人口構成(人口ピラミッドの変化: 中位推計)



## 第1編

### 第1部 少子社会を考えるー子どもを産み育てることに「夢」を持てる社会を

---

#### 序章 少子社会を考える

#### 4 出生率の回復を目指す取組みとして、個人の自立を基本として「多様性と連帯の社会」をつくることが求められるのではないだろうか。

---

人口問題審議会の報告書でも述べられているとおり、「少子化の要因への政策的対応は、労働、福祉、保健、医療、社会保険、教育、住宅、税制その他多岐にわたるが、中核となるのは、固定的な男女の役割分業や雇用慣行の是正と、育児と仕事の両立に向けた子育て支援である」。

これらが着実に推進される必要があることは言を待たない。

と同時に、少子化の要因を生んでいる社会状況を更に掘り下げて考えてみれば、出生率の低下は、20世紀後半の経済成長の過程で進行した雇用者化、居住空間の郊外化などがいわば行き着くところまで行き着き、多くの国民の生活や社会の形が画一的・固定的になり過ぎた結果、結婚や子育ての魅力がなくなり、その負担感が増してきたところに、根本原因があるのではないだろうか。

とすれば、出生率の回復を目指し「男女が共に暮らし、子どもを産み育てることに夢を持てる社会」をつくる取組みとは、いろいろな役割を持つ自立した個人が、相互に結びつき、支え合い、「家庭、地域、職場、学校」といった生活に深く関わる場に多様な形で関わっていけるような社会をつくることではないだろうか。言い換えれば、現在、社会の至るところに見られ始めた多様化・流動化の動きを活かし、個人の自立を基本にした「多様性と連帯の社会」をつくることが求められるのではないだろうか。

そのような土壌の上に展開されてこそ、多岐にわたる政策的対応が真に大きな実を結ぶことが期待できよう。

---

## 第1編

### 第1部 少子社会を考えるー子どもを産み育てることに「夢」を持てる社会を

#### 序章 少子社会を考える

5 人口問題審議会の報告を踏まえ、更なる問題提起を行い、国民的論議を期待する。

第1部では、少子化が進行した20世紀後半特に最後の四半世紀を振り返り、このような基本認識について述べた後、「子どもを産み育てることに夢を持てる社会」を形づくる自立した個人の生き方を尊重し、お互いを支え合える家族、自立した個人が連帯し支え合える地域、多様な生き方と調和する職場や学校の姿を展望してみることをねらいとした。

本白書では、人口問題審議会の報告を踏まえ、少子社会について更なる問題提起を試みた。今後の国民的論議を期待するものである。

図0-3 今後の子育て支援のための施策の基本的方向について(エンゼルプランより)

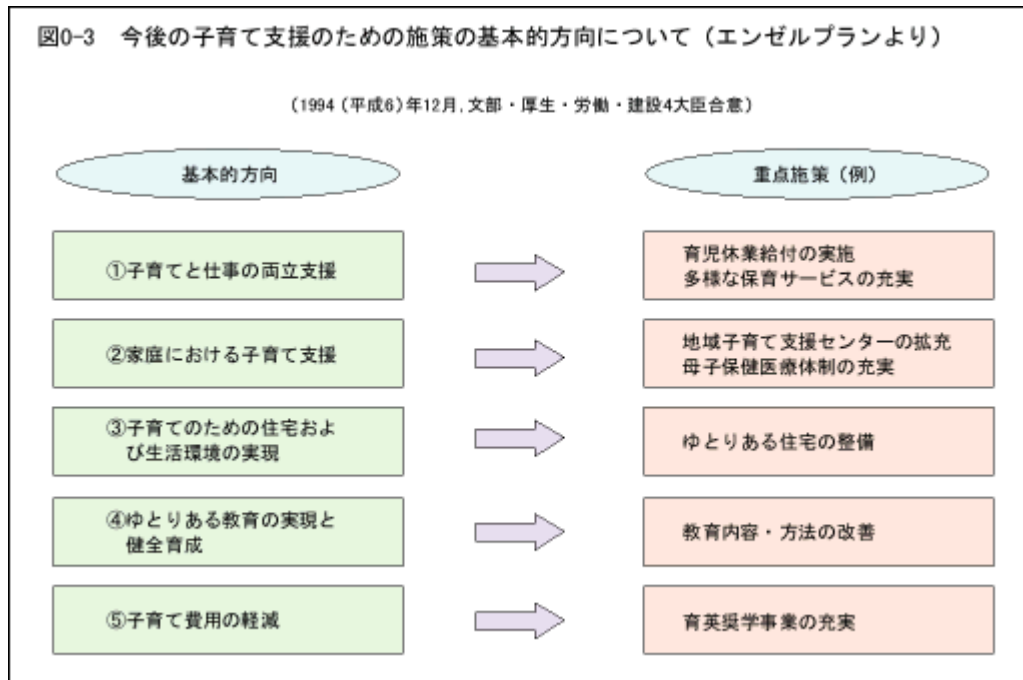


図0-4 子育て環境整備のための方策に関する意識

